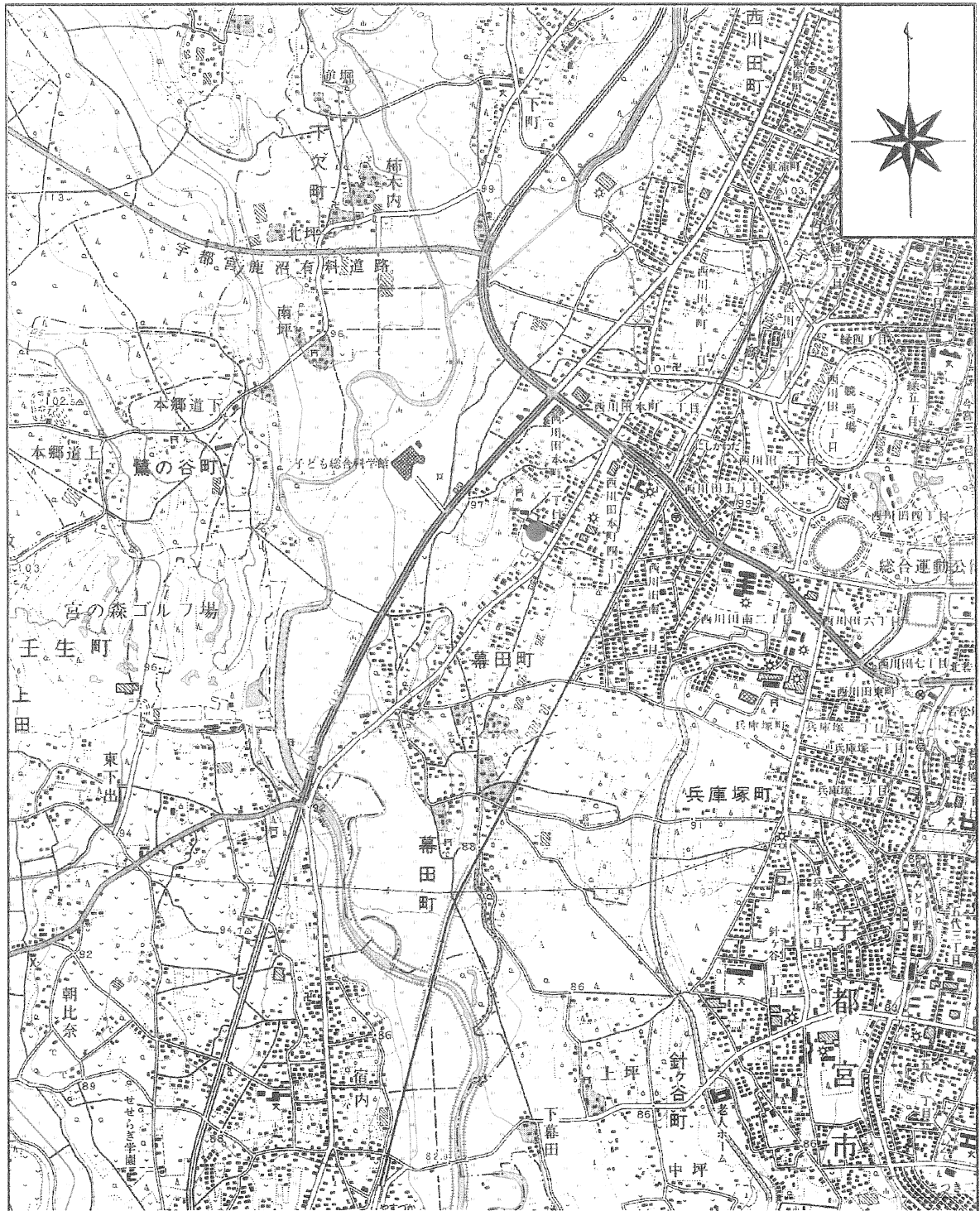


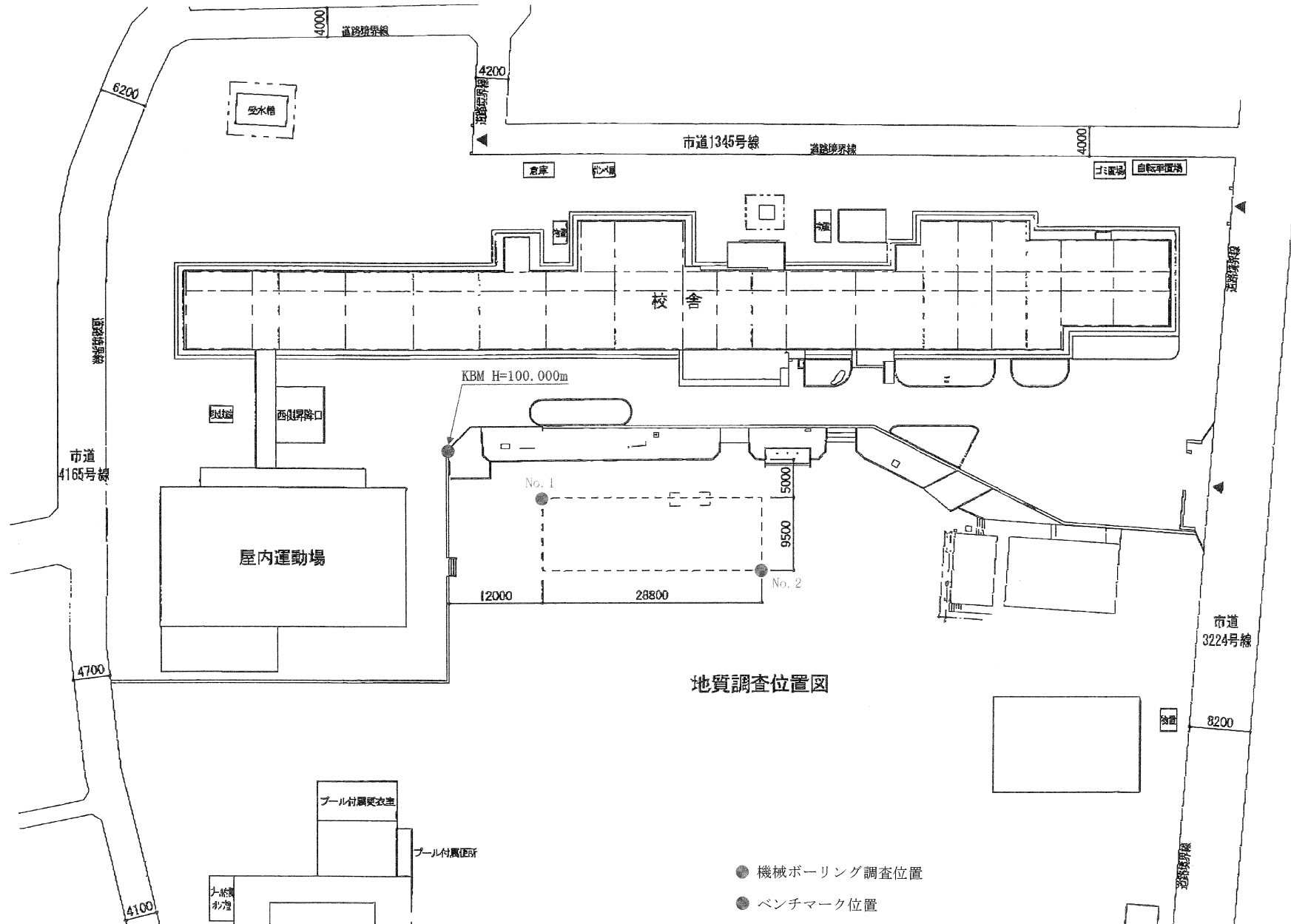
調査位置図



案内図 (縮尺 1:25,000)

● 調査地

(国土地理院発行 1/2.5 万地形図「宇都宮西部・壬生」より抜粋)



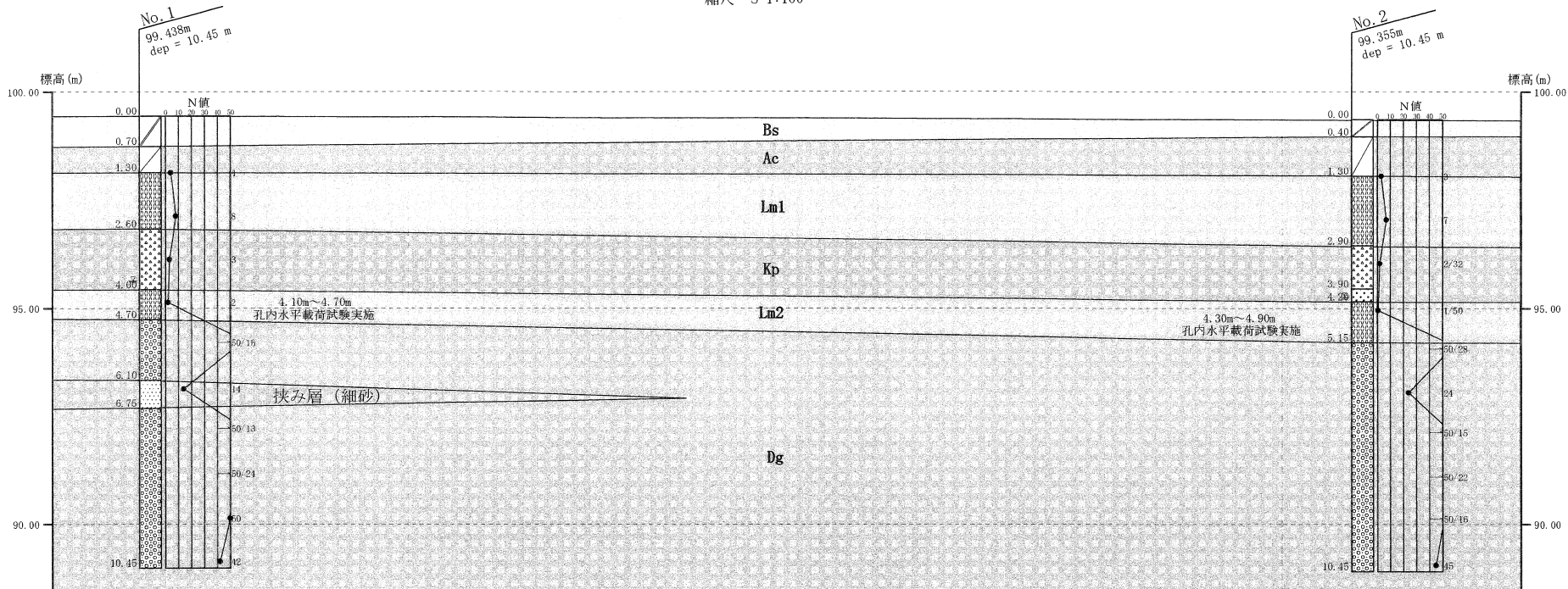
地質調査位置図

- 機械ボーリング調査位置
- ベンチマーク位置

調査位置平面図
S=1:250

No. 1 ~ No. 2間断面

縮尺 S=1:100



凡 例

時代	地層区分	記号	特 徴
新 生 代 更 新 世 第 四 紀 (洪 積 層)	現世 盛 土 層	Bs	地表部20cmは敷き細砂である。以深、暗黒灰色の砂礫からなる盛土材。 層厚は0.40~0.70m。 測定N値なし、全体的に締まっている。
	完 新 世 沖積粘性土層	Ac	暗黒色または暗茶色の沖積シルト層である(旧表土層)。 層厚は0.60~0.90m。 N値は貫入最小N値による換算N=2~3で、軟らかい硬さ。
	上 部 ロ ーム 層	Lm1	茶褐色の火山灰質粘性土層である。 層厚は1.30~1.60m。 N値はN=2~4(貫入最小N値による換算)~8を示し、軟らかい~中位の硬さ。
	軽 石 層	Kp	黄褐色の粒径φ2~3mmからなる鹿沼土層である。 No.2地点のみ下部0.30m粗砂主体層を挟む。 層厚は1.30~1.40m。N値はN=2~3を示し、軟らかい硬さ。
	下 部 ロ ーム 層	Lm2	茶灰色のローム・粘性ロームからなる火山灰質粘性土層である。 層厚は0.70~0.95m。 N値はN=2~1/45を示し、軟らかい~非常に軟らかい硬さ。
	洪 積 砂 礫 層	Dg	暗茶灰~暗茶褐色 (No.2地点の層上部は青灰~暗褐色) の段丘砂礫層である。 No.1地点はGL-6.10~6.75m間に細砂層 (N=14) を挟む。 No.2地点ではGL-6.00~6.60m付近は砂分優勢 (N=24) である。 最終確認層厚は5.30~5.75m。N値はN=45~50以上を示し、密な~非常に密に締まる。

ボーリング柱状図

調査名 宇都宮市立姿川第一小学校増築工事に伴う地質調査

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	NO. 1		調査位置	栃木県宇都宮市西川田本町3丁目11番15号			北緯
発注機関	株式会社 公和設計			調査期間	平成 23年 6月 4日 ~ 23年 6月 7日		東経
調査業者名	阿部ボーリング		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	H=99.438m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 0° 水平 0°
総掘進長	10.45m	度		使用機種	試錐機 YSO-1	ハンマー落下用具	半自動落下
				エンジン	NFD13-E		ポンプ SP-40

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	相対稠度	記 事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	採取方法	室内試験 ()	掘進 月日
											10cmごとの打撃回数	0	10	20	打撃回数 / 貫入量 (cm)						
98.74	0.70	0.70		盛土	暗黒灰		中位		含水(中) 0~0.20mまで細砂0.20m~0.70mまで砂礫より成る。尚、全体に締まっている。		0	10	20	4							
98.14	0.60	1.30		表土	暗黒		中位		含水(中) 全体に均質を呈す。やや締まっている。		1.15	1	2	4							
96.84	1.30	2.60		ローム	茶褐		中位		含水(中) 全体に均質を呈す。全体に締まっている。		1.45										
95.44	1.40	4.00		軽石	黄褐		中位		含水(中) 粒径2~3mm程度で不均質である。黒灰混入している。		2.15	2	3	8							
94.74	0.70	4.70		ローム	茶灰		軟らかい		含水(中) 全体に均質を呈す。尚、若干粘性を帯びて、やや軟らかい。		2.45										
93.34	1.40	6.10		砂礫	暗茶灰		密な		含水(中) 最大30mm程度の角礫所どころ混入している。礫間はφ10mm前後の小角礫及び粗、中粒砂で密に充填されている。尚、全体に密に締まっている。		3.15	1	1	3							
92.69	0.65	6.75		細砂	茶褐		中程度		含水(中) 全体に均質を呈す。		3.45	1	1	2							
88.99	3.70	10.45		砂礫	暗茶灰 / 暗茶褐		密な		含水(中) 最大60mm程度の角礫所どころ混入している。礫間はφ10mm~30mm程度の小礫及び粗、中粒砂で密に充填されている。全体に締まっていて孔壁は自立する。G1~9.30m、付近には粗粒砂を混入している。G1~9.45m以深にはφ40mm前後の角礫多く混入している。	6/4 3.80	4.15	1	1	2		4.10					
											4.45							孔内水平載荷試験			
											5.15	29	21	50							
											5.31		6	16							
											6.15	5	5	14							
											6.45										
											7.15	35	15	50							
											7.28		3	13							
											8.15	20	20	10							
											8.39		4	24							
											9.15	12	15	23							
											9.45			30							
											10.15	18	12	12							
											10.45			30							

